

| 項目                    | 評価指標  | 学校の自己評価<br>結果の考察・分析及び改善策等  | 自己評価 |    | 学校関係者評価委員の意見  | 評価 |
|-----------------------|---|--|------|----|---|----|
|                       |   |  | 指標別  | 総合 |   |    |
| 1<br>かしこい子            | ① 学習内容の定着・学力の向上<br>・基礎学力の定着<br>・家庭学習の習慣化                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学力テスト結果から「場面に合った受け答えに課題がある」ということが見えてきた。今後、教師がその課題を意識しながら授業を展開していく必要がある。</li> <li>○ 「学力調査過去問」を活用することを通して、児童に身に付ける力を意識して授業づくりを行った。教師が実践した授業を相互に見せ合い、研修会を行ったことで、指導力向上を図ることができた。</li> <li>○ 家庭学習に対する児童評価は高い。保護者は「家庭学習の手引きをもとに」という観点が評価を下げている要因のようである。手引き活用についての共通理解が必要である。出された課題に対しての取組はよいが、主体性のある家庭学習とまでは至っていない。</li> </ul>  | 4    | 4  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ アンケート結果から家庭学習の手引きを使った家での宿題や宅習をする習慣について、保護者と教師の評価に隔りがある。共通理解のための具体的な方策が必要だと思う。</li> <li>○ 家庭学習については、提出はされているが主体的に取り組めていないために教師と保護者の評価の違いが生まれたのではないかと。生活リズムチェックに「自ら進んで家庭学習に取り組んでいますか」という評価を入れてはどうか。</li> </ul>   | 4  |
|                       | ② 表現力の向上<br>・自分の考えを書いたり、発表したりできる時間の確保                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童が主体的・対話的に学べるように効果的なタブレットの活用方法を研修し、授業に取り入れたことで、児童の発表や話合いの技能があがり、表現力向上の一助となった。今後はさらに効果的なタブレットの活用方法を共有していきたい。</li> <li>○ スキルタイムでは、発達の段階に応じて、分かりやすい文章を書くことをねらいとして、200字作文、新聞記事・2コマ漫画を活用した作文、詩・俳句・短歌、コグトレ、スマイルドリル、学力調査対策問題とたくさんの取組を行った。回数を積むごとに書く力も伸びてきている。しかし、内容が幅広い取組になったので、取組を絞る必要性も検討していきたい。</li> </ul>   | 4    |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもの学習状況に合わせて学習できるなどタブレット学習には多くのメリットがあると思う。一方、勉強したつもりになり、知識が定着していないこともあるのではないかと。効果的な活用を希望する。</li> <li>○ 2月17日の授業参観は、どの学年も学習発表会で、自分の考えや自分のことを紹介したり、高学年では、友達と一緒に串間の自然のことを調べて発表したり、自分の夢を話し、その為に必要な課題を考え、挑戦しようとする気持ちを伝えたりと、表現力の向上に大きな成果があったと感じた。発表後、友達の意見や感想を聞くのもいいと思った。タブレットを活用した発表は、言葉だけでなく、分かりやすかった。</li> </ul> |    |
|                       | ③ 読書活動の推進<br>・読書意欲の向上<br>(目標貸出冊数 2500冊)<br>・図書環境の整備       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読書通帳の活用や読書おみくじの取組を通して、読書意欲の高まった児童も見られた。また、1回の貸出冊数を2冊から3冊に増やしたことで、いろいろなジャンルの本を読む児童が増えた。</li> <li>○ 図書司書による図書室の整備が図られ、本を選びやすい環境が整った。</li> <li>○ 図書貸出冊数が昨年2197冊、児童一人分(37.8冊)に対して本年度は現在で2758冊、児童一人分(56.3冊)と伸びている。しかし、児童、教師の読書評価はあまり高くない。</li> </ul>   | 4    |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校図書館の中が分かりやすく分類されており、とても広く、清本文庫もあって有明小の子どもたちは恵まれていると思う。子どもからの薦めたい本の紹介コーナーもいいアイデアだと感じた。</li> <li>○ 本を読んだ感想をスピーチする場を設定してはどうか。</li> <li>○ 児童が本を読む機会が増えている。今後もこの活動に力を入れてほしい。</li> </ul>   |    |
| 2<br>やさしい子            | ① 基本的な生活習慣の定着<br>・有明小のあたりまえの実践<br>・あいさつの奨励                | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年度当初、「有明小のあたりまえ」を全職員で確認し、あたりまえ徹底週間を毎月初めの週に設定し、基本的な生活習慣の定着を図るために各担任が共通指導を行った。児童、保護者、教師ともに高評価であった。</li> <li>○ あいさつ運動期間を設定し、地区ごとに校門に立ってあいさつを行った。全校朝会であいさつの良い児童を紹介したところ、気持ちのよいあいさつができるようになった。アンケートの評価も高かった。</li> </ul>  | 4    | 4  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 休日に街で有明小の児童と出会ったときに、わざわざ駆け寄ってあいさつしてくれる子がいた。校門でのあいさつや全校朝会でのあいさつのよい児童の紹介が効果を生んでいるのではないかと。</li> <li>○ 良いあいさつや良い行いをした児童を紹介する取組は良い。日頃の行いを見ている人がいることを感じ、習慣として定着することが期待される。</li> </ul>  | 4  |
|                       | ② 心の教育推進<br>・教育相談、いじめ防止対策委員会の充実                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 毎月、児童に教育アンケートを実施することで児童の困り感等を把握した。その内容や日ごろの指導をもとに、いじめ防止対策委員会を全職員で行い、状況と指導内容を共通理解することで、担任だけでなく全職員で共通した指導が行えるようにした。友達と仲良く協力するという評価が高い。</li> </ul>   | 5    |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 毎月1日の「教育の日」での振り返り(人いやな思いをさせていないか…など)の継続をお願いします。</li> </ul>   |    |
| 3<br>たくましい子           | ① 健康の保持増進に関する理解<br>・進んで運動する児童の育成<br>・健康な生活リズムを守ろうとする児童の育成 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 毎日の生活リズムチェックに合わせて、「保健食育週間だより」を発行した。高学年や習い事している児童は就寝時間が遅くなっていることが分かった。そこで、「生活習慣だより」で眠ることのメリットをお知らせしたり、身体計測時に睡眠の効果を話したりした。評価はもう少しであったが、チェック表で早く寝るようになったと記す児童も増えた。</li> <li>○ 小中高一貫教育の取組で、授業前などにストレッチを行っている。学校保健委員会でも中・高学年児童、保護者向けに実施した。掲示等も続けながら良い姿勢について啓発し続けたい。</li> <li>○ むし歯治療率は現在58%である。(昨年50%)引き続き、受診するように呼びかけたい。</li> <li>○ 体力向上の取組でいろいろな遊びを紹介し、昼休みの外遊びを推奨した。昼休み時間、よく外遊びをしている。</li> </ul> | 4    | 4  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 親が直接学校まで登校送迎をされているところがある。(家庭の状況もあると思うが)可能であれば学校の手前で下車させて、歩いて登校させるなどの方策は考えられないものか。</li> <li>○ 劇、こままわし、縄跳び、合唱等、楽しく拝見した。休み時間等、友だちともよく遊んでいるんだらうなと思った。</li> <li>○ アンケートで立腰の習慣で先生方の評価が低いのが気になった。先生方の言葉かけは大きいと思うので立腰の大切さを子どもたちに気付かせると子どもたちのこれからの人生に役立ってくれると思った。</li> </ul>  | 4  |
|                       | ② 「新しい生活様式」の理解と実践<br>・「新しい生活様式」本校版の実践                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本校版の「新しい生活様式」の実践として、手洗い・消毒・マスク・換気等の基本的な感染症対策を行い、清掃時の教師による消毒、給食時の間隔確保、エチケット歯みがきの意識、教室移動での消毒等をしっかりと行った。</li> </ul>  | 4    |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今後、感染症対策が緩和されていくと思うが、基本的な対策をしっかりと行って予防に努めてほしい。</li> </ul>  |    |
| 4<br>地域<br>家庭との<br>連携 | ① 家庭との連携<br>・親子読書の実践<br>・ノーメディアデーの実践                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ノーメディアデーに読書を入れ、図書を持ち帰らせるようにした学年も多い。また、学級通信等で保護者に呼びかけた学年もあるが、保護者の評価は上がらなかった。</li> <li>○ ノーメディアデーの日は、毎回給食時間の放送で図書委員会が本を借りて家読をするように呼びかけている。</li> </ul>   | 3    | 4  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ノーメディアデーに対する取組の評価があがってきているが、まだまだ評価は低い。難しい取組なので、まずはみんながノーメディアデーを意識し、できる範囲で取り組めるように広めていきたい。</li> <li>○ 親子読書の効果で親子の会話が増えているようである。</li> </ul>  | 4  |
|                       | ② 地域との連携<br>・地域と連携した活動の充実                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ コロナ禍のため、実施できていない行事等もある中で、運動会、グリーンタイム、もちつき等で地域の方と触れ合う機会をもつことができた。また、串間市秋まつりパレードも3・4年生が代表として参加することができた。今後も行事の工夫を行い、地域と連携した活動を増やしていきたい。</li> </ul>   | 4    |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ コロナ5類引き下げにより、行事等も少しずつ実施されると思う。自治会としても学校と連携した活動を増やすなどの具体的な方策を展開することが必要である。</li> <li>○ もちつき等、貴重な経験をさせていただき、有難い。是非、続けてほしい。</li> </ul>   |    |